

CONTENTS

発刊のことば	1
安芸高田の誇り	
I 三矢の訓「毛利元就の里」	3
II 切磋琢磨ひろしま安芸高田神楽「舞い」	4
III サンフレッチェ広島「マザータウン」	5
IV 湧永製菓ハンドボール部	6
安芸高田の四季	
春	7
夏	8
秋	9
冬	10
安芸高田のまちづくり	
I 人がつながる田園都市 安芸高田	11
挑戦① 人が集い育つまちづくり	13
挑戦② 安心して暮らせるまちづくり	14
挑戦③ 地域資源を活かしたまちづくり	15
II まち・ひと・しごと創生総合戦略	16
III 行政	17
IV 議会	18
安芸高田の案内	19
集いの拠点 (安芸高田市庁舎とクリスタルアーゾ)	21

あきたかた。 輝くまち 風景が織りなす、 人と田園の、



発刊のことば

安芸高田市は、平成16年3月1日に、旧高田郡六町が合併して誕生しました。

平成17年度に、安芸高田市総合計画（H17～H26）を策定し、「人輝く・安芸高田」を将来像に掲げ、「住民と行政が奏でる協働のまちづくり」を積極的に推進するとともに、この計画に基づき各種施策を展開してまいりました。

そして、「安芸高田市民憲章」、「第3次安芸高田市行政改革大綱」の方向性や考え方を踏まえ、第2次安芸高田市総合計画（H27～H36）を策定しました。加えて、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、人口の現状と将来の展望を提示する人口ビジョン、これを踏まえた具体的施策を実施しています。

平成27年度より、新たな将来像「人がつながる田園都市 安芸高田」を唱え、その実現に向けて、「人が集い育つまちづくり」、「安心して暮らせるまちづくり」、「地域資源を活かしたまちづくり」の3つの都市像をもって新たなまちづくりに挑戦しております。

誇り
伝えられた文化・
伝えていく人

舞い

切磋琢磨
ひろしま安芸高田神楽



誇り
伝えられた文化・
伝えていく人



毛利元就の里

三矢の訓
おしえ

神楽門前湯治村

美土里町にある神楽門前湯治村では、誰でも気軽に神楽を鑑賞できます。神楽専用の舞台“神楽ドーム”とすぐ隣で神楽鑑賞ができる“かむくら座”があり、年数回の神楽大会のほか、金曜・土曜日の夜には夜神楽が楽しめます。宿泊や温泉入浴や宴会もできるため大人気です。



秋祭りの季節、お宮では神楽が舞われる。舞殿から響く太鼓や笛の音。昔も今も変わらずに、心の中に響いてくる。

神楽は神々へ捧げるもの。神が楽しみ、舞人が楽しみ、見る人が楽しむ。舞殿と客席がひとつになったとき、神人和楽の世界が生まれる。笛や太鼓が鳴り始めると、幼い子どもが神楽を舞い始める。神楽はそんな不思議な力を秘めている。今では公演の場は地域のお宮だけでなく、県内外のお祭りやイベントへと出かけるようになった。

神楽を舞い継ぐ者たちは皆、昼間は仕事や勉学に励み、夜な夜な練習を重ねて本番に備える。現在では、市内に22の神楽団が神楽を舞い、舞人たちはその技を磨いて磨き続ける。



東京公演

「ひろしま安芸高田神楽」の魅力を全国に広める取組として、東京公演を開催しています。同時に、会場では物産品の販売や市の紹介パンフレットの配布も行い、市のPR活動も行っています。

ひろしま安芸高田神楽の特徴

演技性が高く、1演目が1つの物語になっています。大変多くの演目があり、それぞれの神楽団が独自に趣向を凝らしています。正義役(神)と悪役(鬼や大蛇)が登場し、激しく闘いながら、最後は正義役が悪役を退治するという内容のものが多いです。

毛利元就(右)

「戦国の雄」とたたえられた戦国の武将です。明応6年(1497年)、安芸国吉田郡山城(現在の安芸高田市吉田町)に生まれ、75歳で病死するまで200数十回におよぶ合戦をくぐりぬけ、毛利を西国随一の太守にしました。

安芸高田市歴史民俗博物館(右下)

郡山城跡のふもとにある安芸高田市歴史民俗博物館は、原始・古代・中世・近代にわたり、貴重な資料の数々を展示、訪れる人々に紹介しています。

百万一心碑(上)

百万一心碑は、毛利元就が郡山城を拡張するとき人柱に替えて姫丸壇の礎石に「百万一心」と彫らせ、それを埋めたと伝えられています。



「全国的に有名なものは？」と安芸高田市民にたずねると、おそらくこう答えるだろう。「毛利元就」と。

戦国時代、中国地方を一つにまとめたのは、毛利元就だった。元就がその生涯を過ごした安芸高田市には、毛利氏ゆかりの史跡が数多く残されており、戦国時代の足跡をたどることができる。「二本の矢を重ねること、折れにくくなる」と息子たちで協力の大切さを伝えた「三矢の訓」。「百万の人が心を一つに」、また一日一力一心「日を同じうにし、力を同じうにし、力を同じうにし、心を同じうにする」と一致団結の大切さを伝えた「百万一心」。元就の訓えは、市民の心の中で生き続ける。



誇り
伝えられた文化
伝えていく人



ハンドボール部



誇り
伝えられた文化
伝えていく人

サンフレッチェ広島

**有名な監督や選手から
直接教えてもらえる環境が**
湧永製薬ハンドボール部は、地域への普及に努めている。良い指導者に出会えた子どもたちは、めきめきと力を付けていった。県代表として全国大会へ出場する。この快進撃は小学生チームだけではなかった。小学校での経験者が中学校で全国大会へ、また高校でもインターハイへ出場など、ハンドボールと共に育ってきた子どもたちは着実に力をつけている。その中から夢であった湧永製薬ハンドボール部に地元選手が誕生した。

仕事の後はハンドボール
安芸高田市甲田町には、湧永製薬ハンドボール部「レオリック」がある。言わずと知れた日本最高峰のハンドボール実業団チームだ。全国各地から集まった選手たちは、安芸高田市内の寮やアパートで生活を送っている。勤務が終われば、それから限られた時間の中で練習を行う。身長が190cmをこえる選手たちがコート内を駆け回る実業団の試合は、見ていても迫力満点だ。

湧永製薬

甲田とハンドボール
ひろしま国体では、甲田はハンドボールの開催地を引き受けました。民泊で選手たちを受け入れ、チームの応援に住民たちは体育館に押し寄せ、見るうちにハンドボールを知り、ハンドボールのルールを知っていきました。それ以来、甲田で開催する中学ハンドボール大会では、民泊で参加チームを受け入れています。



吉田サッカー公園
サンフレッチェ広島の練習拠点である吉田サッカー公園。毎週練習にやってくる選手たち。ユースの選手もここで練習をしています。地元の子もたかも直接憧れの選手にサッカーを教えてもらうこともあります。

安芸高田市スポンサーゲーム
毎年、市民大応援団がサンフレッチェ広島のホームゲームにかけつけ熱い声援をおくっています。マザータウン安芸高田市がスポンサーとなり、無料送迎バスの運行や市の特産品等の販売、そして毛利軍団による武者応援など、ゲーム開始前から終了まで熱烈な応援を展開します。

**「三矢の訓」がチーム名に
これがかきつけて交流が始まる**
プロサッカーリーグ（Jリーグ）が始まる前の年、広島県にもプロサッカーチームが生まれた。サンフレッチェ広島だ。このチーム名の由来は毛利元就の「三矢の訓」からつけられている。安芸高田市吉田町とサンフレッチェとのつながりは、このチーム名がきっかけとなった。元就ゆかりの清神社へ、選手たちが毎年必勝祈願に訪れる。

**安芸高田の地で勉強と
サッカーに励むユースの選手たち**
サンフレッチェ広島には、ユースという高校生を中心とした組織がある。高校に通いながら、プロになるための練習ももちろん、サッカーを通じて人間性も鍛えている。ユースの選手たちは、昼は地元の高校で勉強をして、夕方から練習を行う。プロになるという大きな目標を持ち、この安芸高田の地で。



四季
四季折々の
自然・行事

四季
四季折々の
自然・行事

夏

春



夏といえば、祭り。
安芸高田でもいろいろな夏祭りが開催されます。また、美しい湖や川辺、山々の自然に囲まれてキャンプに釣りに、アウトドアが楽しめる季節です。



- ③ 高校生の神楽甲子園
●美土里町 (7月)
舞台も会場もとにかく熱い。神楽好きの高校生が神楽ドームに集結。神楽に取り組む真剣な眼差しが観客を魅了します。
- ② 安芸高田市花火大会
●八千代町 (8月下旬)
安芸高田市最大の花火大会。遠方からも多くの観客が押し寄せます。湖面より打ち上げられる花火は、大輪の花を咲かせると共に、波静かな湖面にひときわ色鮮やかに映り込みます。
- ① 一心祭り
●吉田町 (7月下旬)
一心祭りは、吉田町4地区の地域振興会が中心となった実行委員会によって開催されています。保幼小の園児・児童や町内各団体によるステージ発表、武者絵巻、一心節踊りや、夜空を彩る美しい花火などの多彩な内容が楽しめます。



- ④ ほたるまつり
●八千代町・高宮町・向原町 (7月中旬)
八千代町佐々井地区、高宮町川根地区、向原町保垣地区の3地区で、ほたるまつりが開催されます。バザーやステージ発表もあり、地域の大きなイベントとして定着しています。
- ⑥ 成人式
安芸高田市では、毎年8月15日に成人式を開催します。次世代を担う新成人の飛躍を願います。
- ⑤ きてみん祭土曜夜市
●向原町 (7月第4土曜日)
イベントが盛りだくさんで、屋台などが多数出店します。ぜひ向原町にきてみんさい!



- ③ 桜の名勝
●八千代町 (八千代湖)
八千代湖畔(土師ダム)は西日本でも有数の桜の名勝です。6000本余りがいっせいに開花した様は圧巻です。また夜には提灯によりライトアップされ、昼間とはまた違った風情を楽しむことができる土師ダムです。サイクリングターミナル、のどごえ公園など、様々な施設が充実し、四季を通じて訪れる人の目を楽しませてくれます。



- ② 市入り祭り (だんじり屋台・子ども歌舞伎)
●吉田町
市入りの日(毎年5月5日)神輿に供奉する(千歳山)(八雲山)の2台のだんじり屋台が出され、中学生によって歌舞伎が演ぜられます。屋台は京都祇園祭の山鉾をかたどったものといわれ、300余年の伝統を保っています。



春は花の季節です。
桜はもちろんのこと、珍しい自然群生のかたくりが楽しめ、花々にちなんだイベントも催されています。また、田植え祭りも見どころのひとつです。



- ① 神楽競演大会
●吉田・美土里・向原
春をつける「舞」が各地区で開催されています。迫力ある舞で、市内外から詰めかける神楽ファンを魅了します。
- ④ はやし田
●美土里町・高宮町・甲田町
5月の後半から6月の前半にかけて、市内各地ではやし田の実演会が開催されます。多くの早乙女と囃子方が歌大工に従って一斉に田植えをする様は美しい田園絵巻です。

四季
四季折々の
自然・行事

四季
四季折々の
自然・行事



冬

秋



安芸高田の冬。雪を見ながらの露天風呂もよし。とんどの火で焼いたお餅を食べるもよし。他の時期には感じられない、ぬくもりを感じることができます。

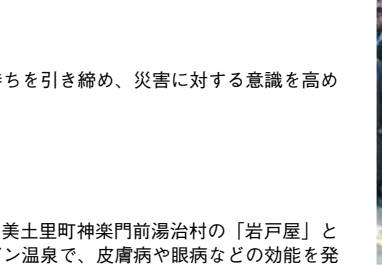
6 鷹の巣山
●向原町
安芸高田市で一番高い山（標高922m）で、2つの登山コースがあります。山頂からの展望は、日の出と霧の海のすばらしさで知られています。

6 カエデの老樹
●甲田町
1823年に、唯称庵主本助上人が京都高尾より取り寄せ植えたカエデです。長い年月を経てこの地の風土に適應して老樹となっています。景観の見事なカエデ林で学術的な価値も高いものです。史跡五龍山の一翼を彩る貴重な存在です。

収穫の秋。梨、りんご、栗にぶどうと、美味しい自然の恵みが満喫できます。また、神楽に関する催しも多く行われ、神楽ファンには見逃せない季節です。

5 こうだわいわい祭
●甲田町（10月上旬）
楽しいゲームや歌・踊りの発表、各種団体によるバザーなど楽しい催し物がいっぱい。

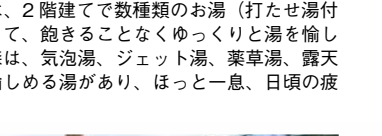
1 出初式
●吉田町
古くから消防団員や消防署員が気持ちを引き締め、災害に対する意識を高める催しとなっている出初式。



4 たかみや大地の祭り
●高宮町（10月中旬）
「音・味・遊び」をテーマに、神楽・太鼓などのステージ発表や、牛肉の丸焼き、200メートルを超える巻き寿司づくりなど、多くの人で賑わいます。

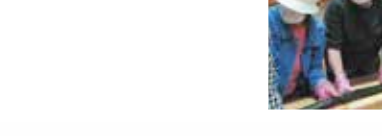


4 自慢の温泉
●美土里町・高宮町
市内には、2つの温泉があります。美土里町神楽門前湯治村の「岩戸屋」とたかみや湯の森。どちらも天然ラドン温泉で、皮膚病や眼病などの効能を発揮するといわれています。岩戸屋は、2階建てで数種類のお湯（打たせ湯付き露天風呂や蒸気サウナ等）があって、飽きることなくゆっくりと湯を愉しむことができます。たかみや湯の森は、気泡湯、ジェット湯、薬草湯、露天風呂、打たせ湯、白湯など多彩に楽しめる湯があり、ほっと一息、日頃の疲れを流してくれるでしょう。

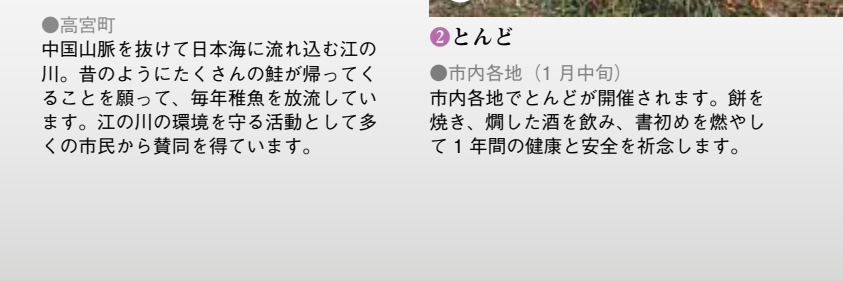


3 サンフレッチェ広島必勝祈願
●吉田町（1～3月予定）
毛利元就の三矢の訓をチーム名の由来としているサンフレッチェ広島は、郡山城跡麓の清神社に必勝祈願に訪れます。

3 ひろしま神楽グランプリ
●美土里町（11月下旬）
各地の神楽競演大会で優秀な成績を取った神楽団が出演し、その年の一番を競います。



2 土師ダム湖畔マラソン
●（11月下旬）
紅葉で色づく土師ダム湖畔を周回するコースは、気持ち良く走れることから、年々参加者の人気が高まっています。



1 ふれあい産直市
●吉田町
地域農産物の販路確保とPR、魅力ある加工品づくり、農業農村の活性化を目的に建てられた施設で、季節の旬の野菜や果物がとことろせましと並びます。周辺敷地に「道の駅」の建設を予定しています。



人が つながる 田園都市 安芸高田

農業を基軸とした雇用創出、ICTや観光等の新たなサービス業開拓により、「働く場」の整備を進めていく必要があります。また、景観や文化、人付き合い等、都市部にはない「暮らす場」としての魅力発信していく必要もあります。加えて、「育てる場(出産・子育て、教育)」としての魅力向上にも取り組んでいく必要があります。

3 効果的で効率的なまちづくり
税の減収、社会保障費の増大等に伴う厳しい財政状況の中、選択と集中による行財政改革は着実に進んでまいりましたが、合併後11年目からは地方交付税の減額も加わり、さらに厳しい財政運営に対応をしていくこととなります。こうした状況の下でまちづくりを推進していくためには、既存資源を最大限活用していく姿勢が必要になります。また、実効を伴う効率的なまちづくりの推進にむけ、市民や事業者等の各主体がそれぞれの立場を活かし、役割分担の下で協働していく必要もあります。加えて、このまちの魅力や取組に対する想い等、相手にしっかりと伝えていく必要があります。

市制施行10年経過、 安芸高田市が抱える 今後の課題

市制施行後、本市では、豊かな自然に囲まれた歴史と伝統ある落着きを活かしながら、都市的魅力と田園の安らぎが共生した快適で潤いある生活空間や「安心」と「ゆとり」を備えた住みやすさ、多様な働く場が確保された「安芸高田」らしさを創造し、住民一人ひとりが生き生きと輝き、暮らせるまちを目指してきました。

1 次世代の確保
次世代確保という課題の解決に向けた取組を展開してきましたが、人口減少の流れを食い止めるには至りませんでした。

2 安心して暮らせる環境整備
「安心」は豊かな暮らしを営む上で最も基本的かつ重要なもので、すべての行政サービスは、究極的にはこの達成を目的としています。「安心」において、何よりも守るべきは命です。近年の大規模災害等の教訓から、災害発生直前・直後における自助・共助による防災態勢をさらに充実していく必要があります。また、生産人口の減少が続く中、高齢者や障害者等、社会的な支援を必要とする人たちを支えていく仕組みづくりも急務となっています。加えて、中小企業や個人商店の活性化等を通じて、地域内経済の維持・循環を図っていく必要はあります。

新たな将来像

「人がつながる」

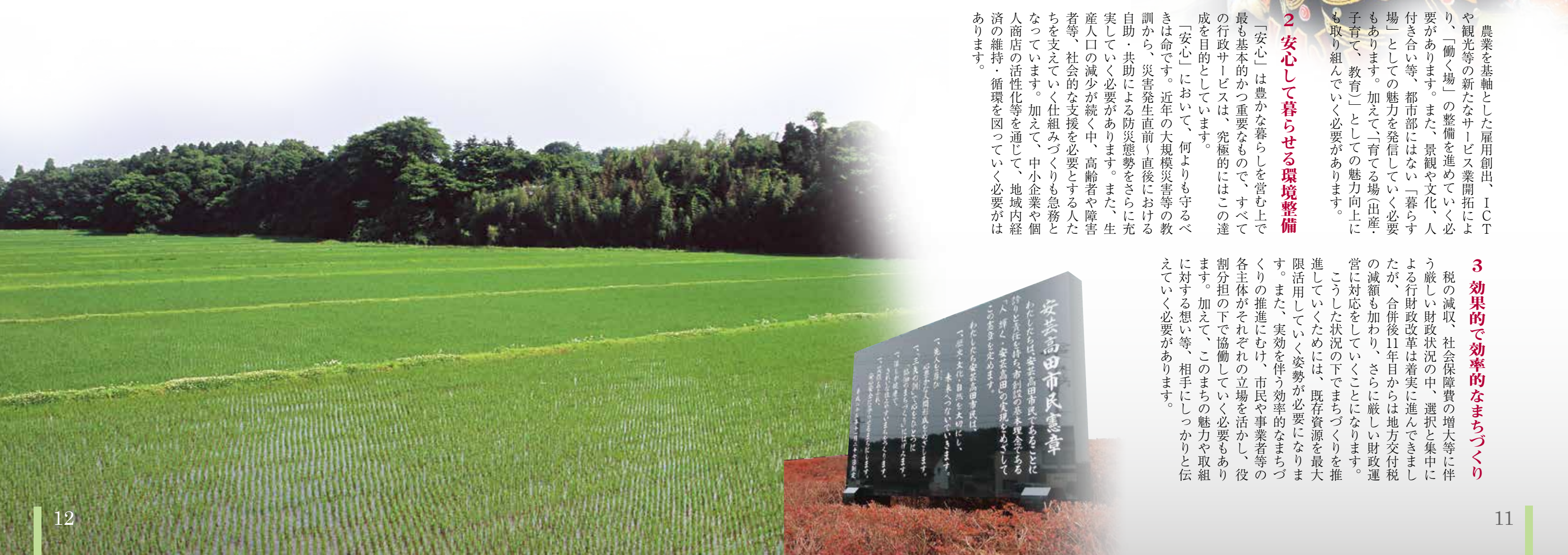
田園都市 安芸高田」へ この実現に向け挑戦します

「つながる」とは、生活・地域・社会を支える目に見えない絆・基盤としての社会関係資本(ソーシャル・キャピタル)です。地域の自然・環境とのつながり、等です。「人がつながる」とは、「いのちの連続性の実感」や「災害時等の共に助け合う(自助・共助)」ということ、「多世代・多文化間のコミュニケーションの広がり」。もつと言えば、「歴史がつ

ながり伝統が継承される」、「地域・社会の知恵の継承」とか、「地域ビジネスが生まれ、地域経済が循環する」ということにもつながります。また、安芸高田市で言えば、6つの町がつながり、32の地域振興組織がつながるといふことにもなります。地域資源を媒介に、人と人、人と地域の時間的・空間的「つながり」を紡ぎ、いのちと暮らしの基盤の再生を目指します。

田園都市

田園と山並みの豊かな緑、清流に囲まれた歴史と伝統ある落着きを活かしながら、都市的魅力と田園の安らぎが共生した快適で潤いのある生活空間や、「安心」と「ゆとり」を備えた住みやすさ、多様な働く場が確保されたまちを目指します。



人が集い育つ まちづくり

挑戦
その1

自然と都市機能がバランスよく調和した、誰もが安全で快適に暮らせる田園都市を目指すとともに、学ぶ文化の醸成を図り、更に就学前教育と子育て支援の充実を目指し、「人が集い育つまちづくり」に挑戦します。

1 自然と調和した 快適な田園都市の形成

自然と都市機能がバランスよく調和した、誰もが安全で快適に暮らせる魅力ある田園都市を形成し、定住の促進を図ります。



① 子育て・婚活住宅取得補助金などによる若者世帯の移住・定住を推進しています。

② 地域おこし協力隊員を増員し、移住者の増と地域の活性化を図っています。

2 学ぶ文化の醸成

次代を担う子どもたちの豊かな将来への基礎づくりや、市民一人ひとりが地域社会に参画できる生涯学習を推進し、学びの文化の醸成を図ります。

3 子育て支援と 就学前教育の充実

誰もが安心して子どもを産み、育てることができるよう、子育て支援と就学前教育の充実を図ります。



③ 学習補助員・非常勤講師を配置し、児童・生徒の確かな学力向上をめざします。また、ICTを活用した分かりやすい授業づくりに努めています。

4

④ 家庭での読み聞かせなど、読書活動へのきっかけづくりを目的に、赤ちゃんとその保護者に、絵本を開く体験といっしょに絵本をプレゼントする「ブックスタート事業」を行っています。

安心して暮らせる まちづくり

挑戦
その2

「自助・共助・公助」による地域防災、福祉社会、医療体制の充実と、美しい安芸高田の自然を次世代に引き継ぐことを目指し、「安心して暮らせるまちづくり」に挑戦します。

1 共に助け合う 安全・安心

「自助」「共助」「公助」が連携して、誰もが安全で安心して暮らせる地域社会の実現を図ります。

2 支え合う福祉社会の 実現と医療体制の充実

誰もが生涯にわたって健やかに過ごせるよう、健康づくりへの支援や意識啓発を行い、自主的な取組を促進します。

3 未来につながる自然環境

美しい安芸高田の自然とともに、良好な地球環境を次世代に引き継ぎます。



② 「市民総ヘルパー構想」に基づく、地域包括ケア構築に係る地域機能の整備を行っています。



3

③ 障害者の自立と社会参加を目的とした支援や本人とその家族に対する相談・支援体制の充実に努めています。



1

① 女性消防団員が誕生し、消防団員の確保に力を入れ、消防車両や防火水槽等を計画的に整備します。

地域資源を 活かした

挑戦 その3

まちづくり まちづくり

安芸高田市の宝を磨き活用することにより、地域の活性化につなげます。また、「住民と行政の協働によるまちづくり」を基盤に据え、産業の活性化と地域経済の好循環を目指し、「地域資源を活かしたまちづくり」に挑戦します。

1 安芸高田市の宝を磨く

地域資源を活用した取組を推進し、多くの人々の来訪意欲を高め、交流による地域振興及び地域経済の活性化を図ります。また市民の郷土に対する愛着と誇りを醸成します。

2 協働によるまちづくりの推進

安芸高田市の均衡ある発展と住民福祉の向上を目指し、「住民と行政の協働のまちづくり」を基盤とした行政活動を推進します。

3 産業の活性化と地域経済の循環

主要産業である農業や製造業をはじめ、林業や水産業の活性化、インターネット環境の充実による新たな産業創出、柔軟な発想を活かした起業支援など、多様な働く場、働き方の創出を図ります。



③「ふるさと応援の会」の力を借り、市外からの視点を活かし、安芸高田の魅力づくりにつなげていきます。

1

①ジビエの特産化については、食肉加工施設の改修を行い、ジビエの活用研究・商品開発・販売促進を強力に推進しています。

2

②「高校生の神楽甲子園」を舞台とした NHK ドラマが放映され、これを機に観光客の増、地域経済の活性化につながります。



まちづくり 安芸高田の まちづくり

まち・ひと・しごと 創生総合戦略の 取組



総合計画における主要なプロジェクトを中心に、国の基本目標に対応した取組を進めます。

■10年先の目標人口を設定し、人口減対策に傾注

↓Uターン、Iターン、Jターンの増

■少子化対策、子育て支援を充実

↓U・I・Jターナー者にとって

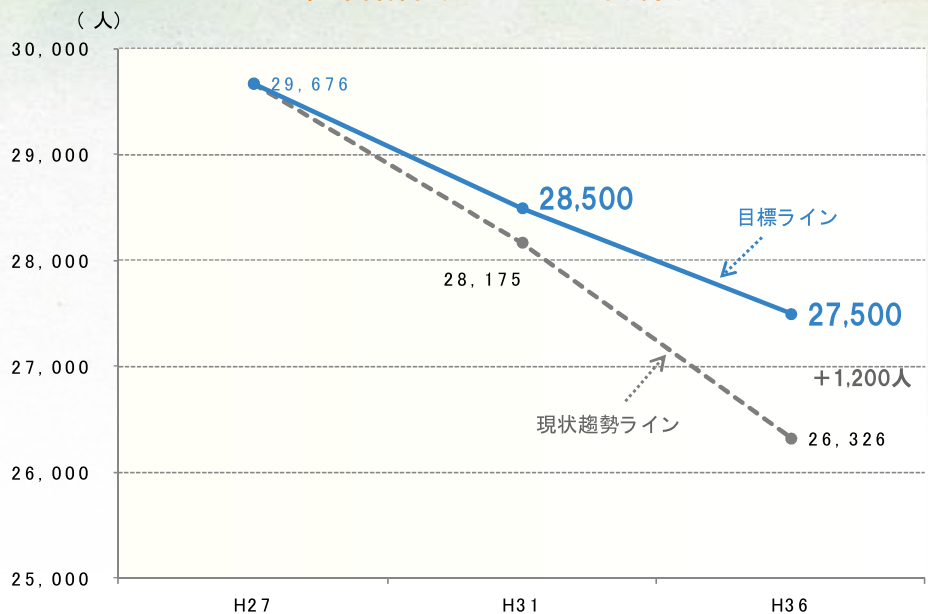
「住みたいまち」に

■市の魅力をさらに磨く

↓「住みたいまち」から

「住み続けたいまち」に

総合計画における目標人口



目標人口

将来像を実現させるために、人口減少の歯止め対策・少子高齢化対策の推進が必要不可欠であり、10年先の目標を掲げて人口問題に取り組みます。

国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計によると、10年後の平成36(2025)年の安芸高田市の人口は26,326人となっています。この人口推計を目安に、10年後の目標をプラス1,200人とし27,500人と設定しました。

基本目標

- 1、地方における安定した雇用を創出する
- 2、地方への新しいひとの流れをつくる
- 3、若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- 4、時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

プロジェクト

- 若者の定住促進強化
- 地域経済の好循環推進
- 次代を切り拓く青少年育成
- コミュニティ活動の高度化



行政

住民との協働による
行政の推進

行政改革の推進

行政の透明性の確保、住民に対する説明責任の明確化を基本方針として、行政情報を積極的に公開するとともに、ホームページや告知放送による情報発信を充実し、迅速でわかりやすい情報提供を図ります。住民意識を的確に把握し、住民の意見を適切かつ有効に行政に反映していくよう、まちづくり懇談会の開催など広聴の充実に努めます。

地域振興組織の活性化を促進するとともに、住民の地域活動の支援の充実を図ります。

「まちづくり委員会」の設置、審議会、協議会等への幅広い住民参加の拡充など、計画策定や管理・運営など様々な段階・分野における住民意見の反映の充実を図ります。

行政改革大綱を行政組織戦略として策定し、的確に実行します。

市民との協働のまちづくりを推進し、公正の確保や透明性の向上に努めるとともに、危機管理体制の充実を図ります。

行政評価システムや目標管理制度を活用し、成果重視の行財政経営に努めます。

人材育成を推進し、より一層の組織・機構の合理化と、定員管理、給与の適正化に努め、地方分権に対応した行政組織体制の確立を図ります。

事務事業の整理統合等を図るとともに、民間活力の導入や高度情報通信技術の活用を推進し、良質で迅速なサービス提供に努めます。

信頼される市政と
広域連携の推進

窓口業務の利便性向上、市民要望への迅速な対応等、サービス向上に努めます。

市民や業者から信頼される入札執行に向け、入札・制度の改正を適宜行うほか、入札・検査は工事担当でない部に配置する等、公平・透明性の向上を図ります。

芸北広域環境施設組合における事務・事業の共同処理を推進するとともに、消防・救急における隣接自治体との連携を強化します。

また、広島広域都市圏協議会やまち起こし協議会（神楽・食と酒）を通じて、広域連携・交流ネットワークの形成を推進します。

市総合計画の円滑な推進を図り、関係事業の早期実施を促進していくため、国・広島県との連携強化と緊密な協議・調整に努めます。

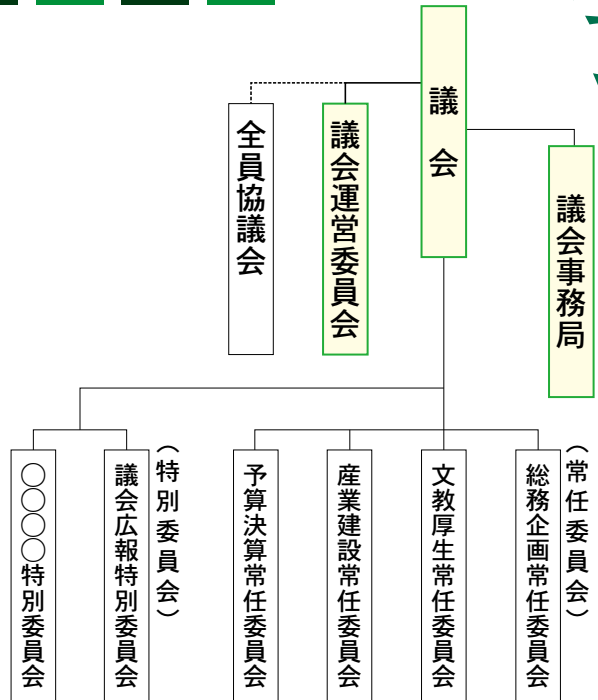


安芸高田市民フォーラムの様子



議会

議会構成



※特別委員会は必要に応じて設置されます。

市議会は、常に時代の潮流を踏まえ、市民の要望にこたえるべく、条例の制定や予算の審議、決算の認定など、市政を進める上で重要なことを決める議決機関です。今後も市の将来像を実現すべく議会を進めて行く方針です。その決定に基づいて、実際に事業を進めていくのは市長（執行機関）です。

市議会を構成するのは、選挙で選ばれた市民代表18名から成る市議会議員です。年4回の定例会と必要に応じて開かれる臨時会において、案件を審議していきます。議会運営を円滑に行うための議会運営委員会や、様々な分野にわたる案件をより専門的に調査・審査するために、総務企画・文教厚生・

産業建設・予算決算の4つの常任委員会を設置しています。さらに必要に応じて特別委員会を設け、慎重に調査・審査を進めています。

市長、議会議員とも市民の選挙によって選ばれ、対等の立場と地位があり、互いに考えを出し合いながら、市民生活向上のために努めています。



安芸高田市の位置



まちへのアクセス



バス

●広島バスセンターから 約1時間10分

バス

- 中国自動車道 高田 IC おりる (安芸高田市美土里町)
- 広島市から国道 54 号北上 約1時間
- 三次市から国道 54 号南下 約30分

JR (芸備線)

- 広島駅から向原駅 (安芸高田市向原町) 約1時間10分 (快速約50分)
- 広島駅から吉田口駅 (安芸高田市甲田町) 約1時間15分
- 広島駅から甲立駅 (安芸高田市甲田町) 約1時間20分 (快速約1時間)

高速バス

- 広島バスセンターから中国自動車道美土里バス停 約1時間 (安芸高田市美土里町)
- 広島バスセンターから中国自動車道高宮バス停 約1時間5分 (安芸高田市高宮町)



道の駅「北の関宿安芸高田」



エコミュージアム川根



安芸高田の案内



甲立古墳 (三次元レーザー)



神楽門前湯治村



土師ダムサイクリングターミナル



八千代本郷の棚田



八千代町上根地区の分水嶺標識



●位置
安芸高田市は、広島県の中北部に位置し、北は島根県、南は広島市に接しており、面積は537.75平方キロメートル。

●地勢
市内には、急峻な山岳はみられないが、鷹の巣山、大土山、犬伏山など大小さまざまな山に囲まれ、市域面積の約8割を森林が占めています。河川は、森林を縫って中央部を江の川が貫流し、北部は生田川、本村川が東流して江の川へ、南部は三條川が西流して太田川に合流しており、市域全体として水と緑が調和したこまやかで落ち着きのある景観を形成しています。

●分水嶺
降った雨は瀬戸内海か、それとも日本海か。安芸高田市の川は、日本海に注ぐ水系と、瀬戸内海に注ぐ水系に分かれています。そのため、市内には水の分かれ目となる分水嶺があります。八千代町の上根地区と向原町の戸島地区に分水嶺を知らせる標識があります。特に戸島地区の分水嶺は、標高200mという平地にあることから極めて珍しいものとされています。地元の人々は、ここに降った雨水が南へ北へと泣いて別れたであろうと、物言わぬ水の心情を推し量って、この地点を「泣き別れ」と呼んでいます。





向原生涯学習センター みらい

集いの拠点
生涯学習センター
みらい



向原生涯学習センターみらい
多世代が学び、交流することで、地域の元気を発信する施設として、平成25年に『向原生涯学習センターみらい』をオープンしました。電動移動観覧席と固定席、合わせて450席の多目的ホールや図書館などが付帯しています。

安芸高田市庁舎と クリスタルアージョ

集いの拠点
市庁舎・
クリスタルアージョ

イタリア語で「安心」、「くつろぎ」、「やすらぎ」を意味する「アージョ」(Agiò)を組み合わせて名付けられました。水晶のように安芸高田市が光輝くとともに、この施設が多くの方が集う生涯学習や、やすらぎの場になることが期待されています。



「クリスタルアージョ」は、施設の大きな特徴であるガラス張りのアトリウム、外観等からイメージされる「クリスタル（水晶）」(Crystal)と、

市庁舎とクリスタルアージョ

行政機能と文化保健福祉機能の融合を期し、市庁舎に隣接する位置に、市民文化センター「クリスタルアージョ」を設置しました。



市章

「安芸高田市」の「高」を图案化したもので、下部の円は「人々と自然」「信頼と協働」を意味している。人々と自然が融和・調和しながら市が円満に発展するようにとの願いを表現した。市章全体は人間の姿を思わせるものとし、次代へ躍進する安芸高田市民を表している。



市の花

あじさい
紫陽花



市内各地、各家庭でも多くの種類が見受けられ、栽培も比較的容易な花であり、種類も豊富で色や形も様々で春から初夏にかけて移り変わる色合いも、私達を楽しませてくれる。多数の方から推薦され、市民にとって親しみのある花であり、たくさんの花弁が集まり1つの花を構成する姿は、合併した安芸高田市の姿に置き換えられることから最もふさわしい「市の花」として選考されました。

市の木

さくら

土師ダム湖畔の桜をはじめ、市内各地に名所があり多くの市民に親しまれ大事にされており、古来から、多くの人々の心を惹きつけている。多数の推薦を得ており、周辺を緑の山々に囲まれる安芸高田市では、樹木の間には咲くヤマザクラも訪れる人々の目を楽しませてくれていることから、最もふさわしい「市の木」として選考されました。



公式マスコット
キャラクター
「たかたん」



「たかたん」は安芸高田市の里山を守る童子（鬼の子ども）。頭は緑いっぱいの安芸高田市の山、たすきは安芸高田市にある江の川・太田川の源流を表しており、背中には毛利元就でおなじみの三本の矢をつけています。

人がつながる田園都市

安芸高田市 市勢要覧

発行／広島県安芸高田市

〒731-0592 広島県安芸高田市吉田町吉田 791 番地

TEL 0826-42-2111 FAX 0826-42-4376

URL <http://www.akitakata.jp>

E-mail info@akitakata.jp